

## アマダイ通信NO.48

(Tile fish network letter)

05年紫蘭咲く

知人・友人各位

今シーズン12回もスキーに通った上越の山の雪も融け、そんなことワシャ知らん、と小平用水の土手には、紫の花が咲き誇っていますが、2600人の読者の皆様、元気にお過ごしでございましょうか？50号記念に何かやらないんですか？と気の早い人もいますが、取りあえず48号を送ります。

◎二年生きた。次の三年も生きてやろう！

直径5センチ大、ステージⅢ-bの大腸がんを手術して4月で2年経過。上行結腸を盲腸もろとも30センチ切除、リンパ節も9箇所切除して3箇所に癌が転移。岩波新書の「胃がんと大腸がん」によれば、ステージⅢ-bの大腸がんは「ほとんど治癒する見込みなし」。リンパ節に転移している場合の「b」評価が決定的。他の箇所にも転移する可能性が高い。幸い、今は肝臓や肺、脳など、他臓器への転移は認められず、癌に罹れば高い数値が出る腫瘍マーカーも、低いままで低下傾向だ。2年無事経過すれば、データの的には転移なしとなる。ここまで来て、何となく一息つく感じだが、無事5年経過しないと完治とは言えない。まだ朝晩一服づつ抗がん剤を飲み、隔月に一回問診を受け、二回に一回血液検査、半年に一回CTなどの画像診断という“闘病生活”が続く。あと3年の間に再発すれば、ほとんど治癒する見込みなしとの岩波新書の診立てが当てはまる。

週一、週末の休肝日を除き毎晩酒を喰らい、体重は“成長”一途。シーズンには同好の志を募り毎週スキーに出掛け、たまには下手なゴルフ。年末年始、五月の連休、お盆休みには海外に物見遊山。勿論仕事も普通にこなし、全国を営業行脚。調子に乗って最近休肝日にも我慢できず、飲んだ気分になりたくてノンアルコールビールで喉を潤す、とんでもない癌患者だ。ノンアルコールと言ってもアルコール分ゼロではない。最初は含有量0.1%未満のものをこれくらいならと、言い訳しいしい飲んでいたので、やはり美味しくない。今では0.5%未満のファインブルーが定番だ。

週一の休肝日も完全には守れない意志薄弱者だと、多少反省はするのだが、そのいい加減さ、やりたいようにやるのが、ストレスを軽減、免疫力を高め、癌にいいのだと言ってくれる人もいる。大まかでいい加減、プラス思考の性格が、病気で急に変わるものでもない。四六時中癌のことを考え、これやってはいけない、あれやらなくちゃと窮屈に生きるよりも、やれる範囲で、やりたいことを、やりたいようにやろうと思う。何よりも“病は気から”という。この調子で癌と“共生”、次の三年間も生きてやろう。駄目ならそれが天命というものか。

◎EU 拡大—平和と連帯か？資本の論理か？・・・ルーマニア・ブルガリアを旅して

昨年の夏、駒場の学生時代からの顔見知り、福井宏一郎君がブルガリア大使を“拝命”。ヘルメットを被り一緒にデモした仲間だが、卒業後は日本開発銀行（現日本政策投資銀行）に入り、世界銀行にも出向、英語の著作もあり、KDDIの理事から大使に転出した。鳥取の倉吉北高出身で、米子東高出身の勝部日出男君（S43年東大三鷹寮入寮）の前々回参議院議員選挙戦で再会。辻恵衆議院議員（S42年三鷹寮入寮）の選挙も一緒に手伝う。



五月の連休はブルガリアの首都ソフィアで福井大使に会おう。ミラノ乗り継ぎのルーマニア・ブルガリアツアーに参加する。北緯40度あたりと緯度は故郷秋田と同じくらいだ。田舎道の両脇にはこでまりやライラックが満開で、真っ赤なアマポーラが彩りを添える。市街地の街路樹にはマロニエの白やピンクの花が咲き誇る。見所のシナイア僧院、世界遺産のイワノボ岩窟教会、リラ修道院などは山懐にある。さわやかな新緑の中を溪流に沿って、バスは登る。雪山も望める。故郷の白神山地を登る趣だ。ルーマニアの田舎道は馬車も走り、街を走る車は旧東欧圏で作られた物が多い上に、錆つき、穴が開くなど日本ではお目にかかれないポンコツもよく見かける。建物も手入れが行き届かず、田舎ではトタン屋根の家が多い。ガイドによれば労働者の平均賃金は月2百ユーロ、3万円弱、16%の所得税など色々引かれて手取り150ユーロほど。消費税は一律19%で失業率は6%ほどだが、共稼ぎが多いとのこと。ブルガリアの街を走る車の方が小奇麗で、ベンツやBMWなど西欧の最新の車も結構見かけ、田舎の一軒家もオレンジの瓦やスレートの屋根が多い。ルーマニアよりブルガリアの方が少し暮らし向きが良さそうに見える。

両国もいずれEUに入り、単一通貨ユーロを使うようになる。旅行者にとっては、国境を越える度に両替し、二度と足を踏み入れることもないだろう国の通貨を使い切るために、要らない物を慌てて買って荷物を増やすこともない。しかし、ドイツやフランスと十倍以上も所得格差のあるルーマニアやブルガリアとの国境がなくなり、同じ通貨を使うようになる。東南アジアの国々と日・中・韓の国境がなくなり、共通の通貨を使うようになるのと大差はない。資本は安い生産コストと市場を求めて、低所得国へ流れ、労働者は高い賃金を求めて高所得国へと、殺到する。域内先進国の今でさえ高い失業率は下ならず、賃金は上がらない。後進国でも先進国の生産性の高い企業、競争力のある商品の流入で競争力のない企業は淘汰され、経済が混乱する。何十年かして、いや、もっとか？各国民の所得と労働生産性がある程度均衡するようになるまで、この大きな流れは止むことがない。そして持てる者と持たざる者の所得格差は更に拡大する。

二度と戦争を繰り返すな！平和と連帯を！美しい言葉で語られるEU統合も、一皮むけば冷徹な資本の論理の貫徹であり、冷戦体制崩壊による資本原理主義への回帰なのである。敵を失った資本主義が剥きだしの論理で世界中を闊歩する。より多くの富を少数の者が独占し、持たざる多数者との二極分解が進めば、社会の軋轢と抗争が激化しないか？そしていつか、量の変化が質の変化に転化しないか？その時とは？質の転化とは？かつて共にスクラムを組んだ福井大使が、雨上がりのソフィアの街を、黒塗りのリムジンに日の丸の旗をなびかせ、ホテルに迎えに来てくれる。夕陽の差し込む広い大使公邸で、ピアニストの夫人も一緒に、地ビールで乾杯し、チーズとピクルスを肴にワイングラスを傾ける。

#### ◎大丈夫？杏の花求め北京～大同へ

近代市民革命後も戦争と殺戮、領土争いを激しく繰り返して、血なまぐさく長い抗争の歴史を持つヨーロッパが、それでも、いや、それ故にか？EUの旗の下に一つにまとまろうとする時、たかだかこの百年の歴史をめぐって、日中、日韓の軋轢が急激に高まり、両国で日本に対する激しい抗議行動が繰り返される。その最中、4月25日に北京で緑の地球ネットワーク（GEN）の高見邦雄事務局長（S41年東大三鷹寮入寮）の「ぼくらの村に杏が実った」の中国訳の出版記念会が北京であり、22日から26日まで北京へ。高速道路300キロをタクシーで往復、久しぶりに山西省の大同にまで足を伸ばす。





こんな時に中国へ行って大丈夫なの？多くの人が心配してくれる。日本のマスコミは大騒ぎしているが、上海で2万人のデモと言っても十倍の人口からすれば、日本ではたかだか2千人。昔、我々もしょっちゅうやっていた。しかも“官許”のデモだ。殺されることもあるまい。デモに出くわしたらそれはそれで面白い。いい経験だ。四泊五日の安い北京ツアーをさがす。“権利放棄”して北京には一日しか泊らないので、三ツ星ホテルで十分だ。3月から滞在中の高見君と、大同で拠点の環境林センターや8ヘクタールの新しい苗圃、植林地のカササギの森、汚水処理施設などを見て回る。癌を手術して以来だ。3年見ない間に植樹した松や檜、サージ（柳葉グミ）も、年降水量4百ミリ、不毛の黄土高原で遅しく育ち、面積も大きく広がっている。92年からでは大同一帯に千6百万本、よく植えたものだ。広い黄土高原からすれば猫の額ほどだが、一粒の麦となるだろう。

呉城村の深い侵食谷の上の台地に、290haの杏の畑が広がる。全耕地面積は440ha。1haあたりの杏の収入は1万5千元から3万元（元はドルに連動、円高なので1元13円ほど）、数年後には倍増が期待される。雑穀では3千元以下だ。一人当たりの年間収入も、3百から5百元だったものが去年は千元を越えた。もっとも良かった家では二人で3万元の収入を得ている。2000年に村から初めて大学へ一人進学し、去年は20人を数えるまでになった。間もなく大学院生も生まれるという。この成果を見て近在でも杏を植える農家が増え、呉城郷全体では1200ヘクタール、県全体で6600ヘクタールと、杏畑が広がる。まさに“杏源郷”だ。日本の桜の花見の次は中国で杏の花見だと、大いに期待して来たのだが、今年は例年より寒いらしい。満開になると大同の市街から、花見客が繰り出すというのだが、残念ながらようやくほころび始めたところだ。

#### ◎毛沢東を日本に連れ帰る！

大同には顧問先の汚水処理会社の社長も同行してくれたので、少しは観光もしなければと、中国三大石窟の一つ雲崗の石窟と、十世紀にできた応県の木塔を見学する。雲崗の石窟が世界遺産に指定されたからか、新しくできた四星の雲崗国際飯店には日本人の団体客も泊っている。人口50万の大同市街への立ち入りは禁止されたとかで、馬車の姿はない。道を拡げてビルを建てて収容したので、大通りには屋台もない。通りに面して衣料や靴、家電などの小奇麗な店が並ぶ。6階建くらいの、エスカレーター付きのスーパーもある。

しかし、表通りから一歩横丁に入ると相変わらずだ。狭い道は舗装もされずデコボコで、ゴミが散乱する。各家にはトイレがないので、所々に共用のトイレがあるが、相変わらず暗く汚い。1階から4階まで、全ての窓に鉄格子がついているアパートもある。がドンドン路地を進むと、同行の社長が「干場さん、もう止めましょうよ」と、後ろから心細そうに声を掛けて来る。

応県の木塔の前の門前市では食品、日用雑貨からファッション、家電まで、何でも売っている。土産物屋に毛沢東の小さな立像がある。手に持つとズシリと重い。260元だという。可哀相に最近では土産物屋を除けば天安門くらいでしか見かけない。の人生に大きな影響を与えた、多分、中国の同世代の人間にはもっと影響を与えた毛沢東。表向きは奉られているが、今や評価は地に落ちているようだ。日本に連れ帰ろう！120元に値切って、紙の毛沢東で銅の毛沢東を買う。雲崗の石窟前でも売っている。今度は120元の胸像を40元に値切って買う。



◎ 『雁棲塞北～来自黄土高原的報告』（『僕らの村にアンズが実った』）中国版出版記念会

高見 邦雄（緑の地球ネットワーク事務局長）

4月25日、北京の26階建ての4つ星ホテル、中国職工之家で開催され盛会でした。120人余りが参加、司会は中国職工対外交流中心の白立文副秘書長。最初に中国語で話し、そのあと日本語で…。裏方から表舞台まで仕切ってくれて、感謝の言葉もありません。あいさつのトップバッターは張秋儉さん。中華全国総工会書記処書記兼中国職工対外交流中心副会長。続いて序文を書いた元文化省次官の劉徳有さん。毛沢東、周恩来など、中国のトップリーダーの通訳を務め、その後記者として東京に長く滞在、「両国の人達が苦楽を共にし、旱魃地域を緑の大地に変える活動を記した貴重な記録。こういう活動を日本語で草の根の活動という」と挨拶。次に私が感謝の言葉を述べましたが、『黄土高原だより』NO.305号と同じ内容。続いて国際文化出版社の総経理、張貴来さん。大同からの出席者を代表、大同市総工会の柴京雲さん。更に中国共産党中央対外連絡部副部長、劉洪才さんが「高見さん達の活動に感動した。山西省に植えた木のように、中日関係もすくすくと育って欲しい」と、乾杯のあいさつ。日中関係改善を期待する熱気が会場に広がる。

予定ではここまで30分の筈だったのですが、実際には1時間半余り。話が長かったのは私だけじゃなくて、皆時間なんて考えてない風。司会の白立文さんは、「こんなに思いが深いんだから、長くなるのは仕方ない。皆さん、しっかりつきあってください」といった調子で、時間がかかるのを全く意に介さない様子。中国の先輩、友人も、長老格から学生まで、色んな人が集まってくれて本当にうれしかった。ジャーナリストも多かった。日本からも私の保護者のような人たちが10数人参加、閉会後もすぐには皆帰らないで、名残惜しそうに会場に残ってくれたんです。

肝心の中国版『雁棲塞北～来自黄土高原的報告』は写真も日本版よりずっと沢山、カラーグラビアページも含め、340ページ。定価29元。全国の新華書店が取り扱っている筈です。注文その他は、国際文化出版公司 FAX010-84257656、E-Mail [icpc@95777.sina.net](mailto:icpc@95777.sina.net)

◎ 橋本さんの体験・・・黄土高原だよりNo305（高見邦雄）より

1996年夏のことです。天鎮県で黄という姓の副県長が、日本からのツアーを案内してくれました。彼が私のところにやってきて、「戦争の時この県で何があったか話してほしいという要求があるが、本当に話してもいいのか？」ときいてきました。私は「話してほしい。私もききたい」と答えました。県長は、県の紹介の中で「七七事変（1937年の盧溝橋事件）の2か月後、日本軍がやってきました。血なまぐさい虐殺があり2千数百人が犠牲になって、県城は血で染まりました」と、言葉少なく語りました。

リクエストをしたのが、前年に続き2回目に大同にきたカメラマンの橋本紘二さん。彼は昼食後4台の一眼レフを肩にかけ、町中の撮影にでかけました。カメラで日本人だとわかったのでしょう。1人の老人に呼び止められました。最初は穏やかだったようですが、段々激してきました。橋本さんは中国語が全くわかりません。戦争のことだろうな、くらいは雰囲気でもわかったそうです。周囲に数十人集まってきました。おじいさんの話を聞きその人たちが興奮し始めたそうです。それにつられておじいさんはさらに興奮、橋本さんの鼻先に指をつきだして罵りはじめたそうです。口からアワをふきだしながら。取り囲んだ人たちは更にエキサイト。橋本さんは「おじいさんはともかく、周囲の人は本当に怖かった」と、後で私に話しました。



青年旅行社のガイド、張紅兵さんがツアーについていました。人だかりしているのをみてツアーの人が関係していないか、と考えました。真ん中に橋本さんが立たされ、おじいさんが彼を罵っていました。人垣を分けて中に入り、おじいさんの言葉を橋本さんに通訳しました。要約すると「自分が3歳の時だった。日本軍によって両親も、兄弟も、親族もみな殺された。自分だけが父親の死体の下で生き残った。お前は知っているか！3歳の子がその後どう苦労して生きてきたか、おまえに想像できるか！」ということでした。橋本さんは「申し訳ない」と謝ったそうです。その後、張紅兵さんが「大爺！最近、日本から、植林の協力にきているのを、知っていますか？」ときいたそうです。おじいさんは、「知っている」と答えました。「この人は、そのメンバーです」と、張さんは話しました。するとおじいさんは「それは悪いことをした！」と行って、橋本さんのカメラマンジャケットの、ポケットというポケットに、ヒマワリやカボチャの種を、ギュウギュウに押し込みました。瓜子といって中国人はよく食べます。おじいさんは瓜子を売って暮らしていたのです。そのお相伴にあずかりながら私は、橋本さんの話をききました。

橋本さんはそれから天鎮県を訪れるたびに、おじいさんが元気であるかどうか探しにいきます。おじいさんはおじいさんで、日本人が来ていると聞くと、橋本さんがいるかどうか探しにきました。ある時昼食を一緒にしました。橋本さんとおじいさんが乾杯しました。橋本さんのカメラを借りて2人が肩をくんでいる写真を私が撮りました。橋本さんの家に行くと、大きく引き伸ばした、その写真が額にいれて壁にかけてありました。話はまだ続きます。橋本さんが山形の実家に帰った時、大同の農村で撮った写真を父親にみせところ、父親は「昔と変わらないな」と話したそうです。父親が兵役で中国にいていたことは、橋本さんも知っていたそうです。でも、山西省だったことはしらなかった。父親も、話さなかったのでしょうか。橋本さんは「あの時自分は父親の代わりに謝ったんだな」と考え、「この仕事はいいかげんにはできない」と、思ったそうです。橋本さんが、写真集『中国黄土高原』（東方出版）をだしたのは、通算6年も大同の農村に通った後のことです。

☆ 『ぼくらの村にアンズが実った～中国植林プロジェクトの10年』日本経済新聞社  
四六判280頁・1600円＋税、書店でお求めください。


特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク (GEN)

552-0012大阪市港区市岡1-4-24 住宅情報ビ5F TEL.06-6576-6181 FAX.06-6576-6182

E-mail [gentree@s4.dion.ne.jp](mailto:gentree@s4.dion.ne.jp) URL <http://homepage3.nifty.com/gentree/>

### ◎ 娘もカンパ携え北京へ

戦後60年経ち、戦争を直接体験した世代、まして自ら戦った人間は少なくなりました。負けた側にとって、負けた事実は面白いものではないし、余り思い出したくありません。中国に負けたのではなくアメリカに負けたのだと思ったりもします。数年前に93歳で亡くなった父も、郵便局長だったからか、通信兵として中国に何度か出兵しましたが、手柄話ばかりしていました。そしてチャンコロや露スケと、中国人やロシア人を蔑んでいました。中国のデモが「小日本（シャオリーベン）」と叫ぶのと似たようなものです。

70年のお盆休み、中野刑務所に前年末から拘留されていたに、父が面会に来ました。若く意気軒高だった私は、開口一番、「露スケやチャンコロと言ってたじゃないか！中国侵略を反省しろ！しなければ口を聞かない！」と叫びました。双方無言のまま時間は流れ、再び手錠をされ、腰紐を引かれ房舎へ帰る息子を、父はどんな気持ちで見送ったか。



北京の出版記念パーティには上海にいる娘も、フィアンセと一緒に駆けつけてくれる。上海の浦東で、日系企業を相手に経理処理や許認可などの代行、コンサル業、いわば「株総務部」を営む婚約者ですが、お客の日系企業の方からと自分の分を合わせて、2万円の寄付を会場に持って来てくれる。大口の寄付に会場も湧き、高見君から前に引っ張り出されて紹介される。親子三代、中国と関係を持つことになったが、関わり方の違いが時代を映している。娘達には日本と中国、中国の沿海と内陸の架け橋になってくれればと思う。

#### ◎愛国は無罪か？

三世代を経て日中関係は、敵対から相互依存の関係になったが、大きな溝が存在するのも事実だ。しかし、橋本さんとお爺さんのように、お互いを思いやり、理解しあえばその溝も越えられよう。だがその前提に、相手の国に出掛けて戦争をしたのは日本だという事実がある。殺した方は世代が代われれば責任がないと思いき勝ちだが、殺された方は何代にもわたって忘れない。侵略への反省は言葉だけでなく、行動でも示さなければならない。A級戦犯も合祀された靖国神社への首相の参拝は、侵略の反省の弁とは裏腹で、憲法の政教分離原則にも反する。この際、無宗教の戦没者慰霊施設を別途作るべきで、歴史認識の問題についても正すべきは正し、相互理解を深める手立てを尽くすべきである。

翻って今回のデモに対する中国政府の対応も感心できない。天安門事件や法輪講などへの対応でわかるように、集会の自由すら保障されない国でデモが許され、乱暴・狼藉を目の前にして警官が何もしない、高官が日本に責任を転嫁する発言をするのは、異常である。“愛国無罪”のスローガンが“革命無罪”に変わるのを恐れたのかも知れないが、上海のデモ以降、急速に沈静化したことを考えれば、敢えて許された行動だったとわかる。

今回の件で、中国の“法治”のレベルも明らかになり、日本への矛先が何時、自国に向けられるかも知れぬということ、他の国も感じたことだろう。外国資本にとって中国、特に沿海が魅力的な市場に成長したことも事実であるが、個々の国、資本にとっては他に未開拓の市場もある。カントリーリスクも含めた総合的な魅力、優先順位の問題だ。生産コストの安さだけなら他にもある。外国資本が中国経済に果たす役割の大きさを考えれば、リスクを考え、投資の分散が進むことで、中国経済にも多少の影響は出る。目的は手段を正当化せず、両者は常にパラレルである。愛国は無罪ではなく、やり方によっては自分にも跳ね返るのだ。

北京、上海は勿論、三年振りに訪れた内陸の小都市（と言っても人口50万人）大同の変化を見ても、マスとしての中国経済の発展は目を瞠るものがある。が、沿海と内陸、又、それぞれの中で、格差は益々拡大している。改革・開放で豊かになったのだから、鄧小平様々じゃないかと思うが、平等ではなくなった、毛沢東の方がいいと公言する者もいる。6月の頭には上海で娘が結婚する。経済も順調に発展、内陸へも波及して全体的に豊かになり、民主化も進め政治的自由も拡大、若い二人が安心して住める国になって欲しい。だが有史以来貧民革命を繰り返す国で、造反有理、革命無罪と唱えたのは毛沢東である。

#### ◎今、日中関係を考える・・・黄土高原の現場から

黄土高原での13年間の植樹協力を通じて中国の現場に精通、中国に貢献した外国人に与えられる国家友誼賞も受賞、中国共産党・政府にも広範なネットワークを持つ、緑の地球ネットワークの高見邦雄さんが、ホットな話題も含め、日中関係のこれからを語ります。



一年生議員としては記録的な質問回数を重ねる辻代議員も出席、国政報告もする予定です。どなたでも参加できますので、読者の皆様、奮ってご参加下さい。

日時 6月2日(木) 6時開場、6時半開会

場所 学士会館(東京メトロ神保町駅、竹橋駅下車 Tel 03-3292-5931)


会費 3千5百円(食事つき) 主催 辻 恵 東京後援会(事務局長 干場革治)

連絡・申込 干場事務所((有)ティエフネットワーク) 電話 03-5689-8182

Fax 03-5689-8192 Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

### ◎ ダイオウズを宜しく!

三鷹寮で2年先輩の久保田康史弁護士から連絡がある。顧問弁護士をしているダイオウズの営業顧問にということで、銀座でご馳走になる。玄関マット、化学雑巾などのレンタル、オフィスコーヒー、ピュアウォーター、リサイクルトナーのサービスなどで年商百億円ほど、店頭公開会社だという。飛び込み営業で業績を拡大して来たが、人脈豊かな人材を活用、法人営業を強化したいと、紹介を頼まれたという。

“水商売”?は初めてだが、久保田先輩の紹介だ、ネットワークが役立つなら、異議はない。二つ返事でOKする。建築関係の営業顧問先共々、宜しくお願い致します。

### ◎ バイオテクノロジーの30年・・・三鷹クラブ60回定例懇談会(大阪)

今回は、元名古屋大学農学部教授で、我が国のバイオテクノロジーによる医薬品分野の大御所的存在である垣沼淳司さん(昭和28年入寮)が講師です。文系でバイオとは無縁の者による紹介は必ずしも適当ではなく、氏も相当の違和感を持たれるだろうが、これまでのお付き合いや、ご近所の誼でご勘弁いただきたい。

垣沼さんの名前は入寮前から知っていました。或る受験誌に掲載される優秀答案の常連だったからです。三鷹寮で会った彼は勿論今のピタゴラス的風貌ではなく、むしろやんちゃくれといった感じの大変明るく朗らかな好青年だった。同じ理Ⅱでも羽鳥、渋川さん達はよく存じ上げていたが、彼とは部屋も大分離れており挨拶を交わす程度だったと思う。

垣沼さんは農学部農芸化学科卒業後武田薬品に入社、約30年勤務。理事・生物工学研究所長で退職するまで、数々の優れた研究業績を残す。1・2例示すれば、若くして日本農芸化学会の奨励賞を受賞したバイオサーファクタント“サーファクチン”(生理活性物質)の発見や、C型肝炎に有効な国産“インターフェロンα”の開発・企業化がある。後者は遺伝子工学を用いて開発された国産第1号のタンパク質医薬で、適用対象患者が多いので健康保険がパンクするのではとの噂もあった。また、優れた研究者としてだけではなく、ヒューマンサイエンス振興財団(厚生省関連)を事実上立ち上げるなど、オルガナイザーとしても高く評価されている。

垣沼さんは定年を間近に控えて武田薬品を退職し、高い競争率をクリアして名古屋大学農学部教授に就任、教育・研究に加えて学会の役員や文部省学術審議会専門委員等の活動に忙殺されてきた。カバーする領域は醸酵学、生化学、バイオテクノロジー、栄養学と幅広いが、最近では、分子栄養学(分子生物学と栄養学との学際的領域)にも強い関心をお持ちのようなので、ひょっとすると、話の中で、栄養や食品からの、生活習慣病やボケ等の予防に有効なヒントを聞けるかも知れない。



最後に、彼の趣味は多彩でそれぞれ素人離れしている。中でも囲碁は6段(プロ高段者に3子)で、歌曲は数年前ウィーンで開催された国際栄養学会の市長主催懇親会の席上、楽団演奏をバックにカンツォーネを歌い上げ大喝采を浴びるなど、文系の講師とはまた違った意味での期待を十分に持てるのではないか。

昭和28年入寮 一重高毅 (元武田薬品)記

日時 平成17年5月31日(火) 18時30分~21時  
場所 大阪弥生会館(大阪市北区芝田2丁目4番53号 電話 06-6373-1841)  
交通 JR大阪駅中央北口から徒歩5分 会費 5000円(夕食・飲物付き)  
申込先 平賀俊行 Fax 03-5256-0458 電話 03-5256-0455 (株)国際研修サービス  
干場革治 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182 (有)ティエフネットワーク  
Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

### ◎東大三鷹寮40年・41年合同会(第8回)の御案内

皆様お元気に御活躍のことと思います。昨年6月4日に開かれた第7回の40年・41年合同会は、40年32名・41年16名合計48名が参加、盛り上がりましたが、早1年経過しました。そこで、旧交を暖めるべく今回も40年会と41年会を合同で下記の通り行うことにしました。奮って参加されるようご案内致します。場所は例年と同じです。

私自身の今年の年賀状で「高校を卒業してから40年もたち、記念の学年同窓会が開かれます」と書きましたが、そちらは今までで一番多くの出席で楽しく語らってきました。

私たちが三鷹寮に入ってからもちょうど40年になります、ずいぶん昔のことになりましたが、あれこれ思い出すことはたくさんあります。皆さんの近況を聞くのも楽しみです。

初めて参加される方も気楽に足を運んでみて下さい。(遠藤)

一昨年より増えたのですが、40年入寮の先輩組に比べ、41年入寮組の参加が少ないので(母数も半分)、先般、都市工主体の、寮同期の石井重信君を偲ぶ会で一緒になった森下尚治君と更に小林政秀君にも呼掛け人になってもらいました。大定年時代を迎える団塊世代の魁として、楽しく第二の人生を送るためにも、グラス片手にそれぞれの来し方、行く末に耳を傾け、楽しく語らい、人の輪を広げ、密に行きたいものです。(干場)

なお、出欠の御返事は、Eメール又は同封の葉書で、遠藤(40年)、干場(41年)まで、それぞれ御連絡下さるようお願いいたします。


日時 6月3日(金) 午後6時

場所 トップ オブ ザ スクエア <sup>うたげ</sup> 宴 (千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア23階 電話 3217-0779)

会費 1万円(十連絡費1000円)

呼掛人 40年宮原耕治・遠藤昭 41年小林正秀・森下尚治・干場革治

### ◎終わりに

音痴で中国語の発音が全くわからぬ落第坊主にしては、中国の話題が多くなりました。娘が結婚して上海に住むことになり北京、大同、上海と、定点観測地点が三箇所になります。相互理解を深めるために、この夏の中国ツアーを二つご案内致します。は中国語クラス1年先輩の辰野さん主催のシルクロードツアーに参加する予定です。再見!





◎2005 夏の黄土高原ワーキングツアー ご案内

大同での GEN の緑化協力も 14 年目をむかえます。初期に植えたマツは人の背丈をこえて大きくなり、小学校付属果樹園で杏が収穫ができるようになった村では収入が従来の 10 倍以上になったり、村で初めての大学生がでたりと成果が目に見えるようになってきました。他方、環境林センター、霊丘自然植物園、カササギの森、白登山苗圃など、育苗から造林樹種の多様化をめざすソフト面の協力拠点も充実。「NGO の緑化協力なんておまごともみたくないものだと思っていたけど、ここまでやっているとは……」と数多くの現場をみてきた林野庁 OB を驚かせた GEN の緑化協力を、あなたも見て、体験してみませんか。

☆日程：2005 年 7 月 30 日（土）～8 月 6 日（土）7 泊 8 日

7 月 30 日 午前 8 時関空集合。午後、北京着。列車で大同へ。大同泊

31 日 天鎮県へ。地球環境林で作業。

8 月 1 日 小学校付属果樹園で作業。

2 日 渾源县へ。小学校付属果樹園で作業。農家でホームステイ

3 日 カササギの森、白登山苗圃で見学と作業。大同泊

4 日 雲崗石窟、万人坑見学。環境林センター見学と作業。夜行列車で北京へ。車中泊

5 日 早朝、北京着。終日、北京観光（自由行動可）。北京泊

6 日 朝、北京空港発。午後、帰着（以上、変更になる場合があります）

費用：一般＝178,000 円、学生＝168,000 円

（国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費、GEN 年会費を含む。個人行動時の費用、旅券取得費用、空港施設使用料、航空保険料は含まない。人民元の大幅な変動があった場合、費用が変更になることがあります。）

※中国国際航空利用 ※関西空港発着（今回は成田便の航空運賃が高く、スケジュールの都合もあるので、関空発着のみとします。）

訪問先：中国山西省大同市（北京経由）

定員：30 人

申込み締切：6 月 20 日（ただし、定員に達し次第締め切ります）

● 問合せ・申込み先：NPO 法人 緑の地球ネットワーク

TEL. 06-6576-6181 FAX. 06-6576-6182 e-mail : gentree@s4.dion.ne.jp

URL <http://homepage3.nifty.com/gentree/>

※北京や上海とは全く違った内陸中国の現実、貧困・水不足に苦しみ、生活向上をはかるもう一つの中国を知るには打ってつけのツアーです。農家にも泊り、農民や地方の党・政府の幹部とも交流、彼らの生活と意識を知り、中国理解を深めるために、これ以上のツアーはありません。併せて、黄土高原の緑化、貧困救済、地球温暖化防止にも寄与できます。



## ◎第7回「中国・新疆 視察旅行」

株式会社辰野 代表取締役専務 辰野 元彦

ウイグル自治区やウルムチ市に於いては、産業の各分野で有望な数多くのプロジェクトがあり、特に日本からの協力が強く要望されていることを実感しました。日本の方々にとって当地を知って頂くべく、本年も7月に第7回「中国・新疆 視察旅行」を実施致します。

各種資源の豊富な新疆ウイグル自治区は、中国政府の西部大開発の政策により大いに発展が期待されております。又、シルクロードの中国西端に位置し、観光の面でも十分楽しんで頂けます。種々ご予定もお有りかとは存じますが、この機会に是非当地を訪問頂きたくご案内申し上げます次第でございます。帰路では、敦煌や大連も訪問する予定です。

### 1. スケジュール

	月 日	都 市	現地時間	交通機関	適 用
1	7月16日 (土)	関西空港発 北 京着 北 京発 ウルムチ着	10:30 12:35 14:40 18:30	JL785  CZ6902 専用車	出国手続後、JAL 便にて北京へ着後、国内線に乗り換えて、ウルムチへ到着後、夕食 (「海徳大酒店」同等クラス 泊)
2	7月17日 (日)	ウルムチ  トルファン	  夕刻	  専用車	ウルムチ市内視察及び交流会 辰野地下商店街視察、紅山公園、新疆ウイグル自治区博物館など (希望者は二期工事現場見学) (「トルファン賓館」同等クラス泊)
3	7月18日 (月)	トルファン  ウルムチ	  夕刻	  専用車	トルファン視察及び観光 カレーズ博物館、火焰山、ベゼクリク千仏洞、交河古城、アスターナ古墳群等 (「海徳大酒店」同等クラス 泊)
4	7月19日 (火)	ウルムチ発 敦煌	08:15 09:25	CZ6895  専用車	敦煌へ着後、莫高窟、鳴沙山、月牙泉見学 (「敦煌太陽大酒店」同等クラス 泊)
5	7月20日 (水)	敦煌  大連	11:20  14:20	CZ6482  専用車	着後、大連市内見学 (「フラマホテル大連」同等クラス 泊)
6	7月21日 (木)	大連発 関西空港着	13:40 16:55	専用車 JL790	旅順見学(203高地、東鶏冠王、水師營) 出国手続後、空路、帰国の途へ

◇定 員：参加定員は30名です。定員に達し次第締め切らせていただきます。

◇食 事：<朝食>5回 <昼食>3回 <夕食>5回 (機内食を除く)

◇利用航空会社：日本航空(関空<=>北京・大連) 中国南方航空(北京→ウルムチ→敦煌→大連)

◇諸事情により、已むを得ず日程変更・中止をする場合もございます。

### 2. 参加費用：249,000円(団体料金適用)

ご参加頂ける場合には、下記申込書にて来る6月20日迄に FAX 又は郵送にてお願い致します。(参加定員：30名)。又、詳細のお問い合わせにつきましては、弊社海外事業部 (Tel 06(6263)2360、Fax06(6263)2791 担当：大田・石(k..seki@tatuno.co.jp)) まで。

※成田発も可能のようです。🐟